

2013年 7 月号



goo ランキングというサイトが3年前の七夕ごろに調べた七夕の願い事ランキングの Top 3 は、1) 家族みんなが健康で過ごせますように、2) 毎日楽しい生活が送れますように、3) 宝くじが当たりますように、でした。やはり健康がトップ。社会全体の高齢化の中で、極めて平凡で、かつ重い願いのような気がします。ちなみに、被災地のこどもたちの願い事の例「早くお父さんの仕事が元通りになりますように」「ヒーローになってみんなを助けたい」。みんなで応援しましょう。

7月定例会案内

定例会は 23日(火)

日付・場所注意!

詳細 P.2

先月に続いて第4火曜日になります。場所も同じく、両国の㈱玄米酵素東京支社のセミナー室(エコロホール)をお借りします。講演は、元衆議院議員で、広島県の榎田病院名誉院長の榎田仁先生から「近年の医療を取り巻く諸問題と患者・市民へのアドバイス」というテーマでお話頂くことになっています。ノーベル賞の共同受賞者でもある先生は、国内でも、国際的にも実に豊富な経験をお持ちです。今回は、どんな質問も意見、批判も大歓迎なので是非と注文がありました。

6月定例会報告

詳細 P.3~5

6月は第4火曜日の25日、初めて、両国の㈱玄米酵素東京支社のセミナー室(エコロホール)をお借りして開催。梶原代表からの農水省に申請している「健康道場」のプロジェクトの報告の後、健康生活推進協会専務理事の江木佐織様から、生活習慣病予防の指針と健康生活検定というタイトルで、お話と簡単な検定をして頂きました。

その他

詳細 P.6~9

今回は、三浦雄一郎さんのエベレスト登頂の陰の事実、ベストセラー医師近藤誠さんの本を読んで、アンジェリーナ・ジョリーさんの手術で話題となった遺伝子検査、「医療は公共財かビジネスか」では、アメリカでは別格のスターバックスコーヒーの健康保険制度について見てみました。

健康医療市民会議(KISK) 代表 梶原 拓

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-2 東武ハイライン大門 203

TEL: 03(5403)7723 FAX: 03(5403)7724 E-Mail: Info@kisk.jp URL: <http://www.kisk.jp>

お知らせ:会報は当会ホームページ <http://www.kisk.jp> の「会報」ボタンからダウンロードできます。

第64回（7月）定例会のご案内

日時：平成25年（2013年）7月23日（火）16時～18時

場所：(株)玄米酵素東京支社 4F エコロホール 墨田区両国 3-24-10（下図参照）

参加費：会員¥2,000、ビジター（同伴者）¥3,000

日時・場所 注意!

予定：16:00～16:45 中間報告 梶原代表

16:45～18:00 「近年の医療を取り巻く諸問題と患者・市民へのアドバイス」

梶田 仁様 初仁会梶田病院 理事長 元衆議院議員

講演案内：「近年の医療を取り巻く諸問題と患者・市民へのアドバイス」

梶田先生は、病院の経営者ではありますが、自らの被曝、大手術の経験に始まり、途上国の医療支援など国際的活動とか、今回の大震災、福島原発事故に際しての支援活動とか、下記プロフィールでは書き尽せない豊富な経験をおもちですが、今回、あえて特定のテーマは設けず、近年の医療を取り巻く諸問題を十数件取り上げて解説して頂き（事務局からは、例として、ドラッグラグとか、混合診療の問題を提示）、関連して、私たち市民にアドバイスを頂く形式の講演としました。それ以外にも、医療、福祉に関して、どんな質問にもお答えする用意があり、どんなご批判、ご意見も大歓迎ということです。

ご質問
ご批判
大歓迎!

梶田先生プロフィール：1942年生。1967年京都府立医大卒。広島大学医学助手。国立大竹病院院長。1980年医療法人初仁会梶田病院開院、院長。1985年核戦争防止国際医師会議の一員としてノーベル平和賞受賞。1991年広島県議会議員当選。1996年衆議院議員当選。現在：国際先進医療がんセンター機構 総長、元衆議院議員、国連の友 Asia-Pacific 東日本震災医療団 団長、国連の友 JAPAN 理事、前日本医師連盟 参与、日本先進美容研究機構 会長、マザーズハート財団 理事長、日本医療紹介機構 会長、梶田病院 理事長及び名誉院長、日本家庭基盤充実機構 会長、医事評論家、著書：「はなまどろみ」「平成紙しばい永田町政治村」「医療があぶない」「水素と医療」

会場案内



(株)玄米酵素 東京支社 4F エコロホール 墨田区両国 3-24-10 第2 酵素ビル「エコロ」（下図のA）

（JR総武線 両国駅東口より徒歩2分 ・地下鉄大江戸線 両国（A4出口 下図のA4）より徒歩5分）

JR両国駅東口を南側に出て左へ。パチンコ店の横を京葉道路方面に100m歩いて右角のビルです。

先生を囲む会の案内は
FAX 申込用紙に



第 63 回（6 月）定例会報告（メモ）

6 月定例会は 25 日、両国にある㈱玄米酵素東京支社のエコロホールにて開催。隅田川の東ということで、やや遠くなった人もおられますが、いつもとほぼ同じ 30 余人の参加。同社は、食事に関しての講演、セミナーを重視している会社らしく立派なスクリーンが設置されていました。当面、ここが主な会場になる予定で、使用させて頂くことに感謝。

1) 中間報告 梶原代表

前回の定例会の金岡先生の講演の簡単な復習、今回の江木様のご紹介と、次回 7 月の定例会の予定と講師・松田仁先生の紹介等がありました。患者・市民の自衛策としては、農水省に交付金を申請しているプロジェクト「健康道場」の紹介がありました。



2) 「農村に企業と提携『健康道場』を！」 梶原代表

現在、代表が中心となって進めている「健康道場」について説明がありました。その趣旨は、農村に都市（企業）と共同で、農水省の交付金を活用して、豊かな自然の中で「認知症」や「うつ病」の予防や改善を行う。企業の従業員は「健康づくり」をしながら農作業やお祭りへの参加で農村社会、農村文化の維持に協力する。農村を「健康空間」だけでなく、「業務空間」「学習空間」「収納空間」「避難空間」などとして多面的に活用し、「都市エネルギー」による地域の活性化を図る、というものです。

認知症とかうつ病はますます大きな社会問題となりつつありますが、現行の医療・介護制度では病院や介護施設の経営上プラスにならない—治療・改善するのにお金がかかり、改善すれば収入が減るといふ患者不在の仕組み—ようになっているので医療・介護の財政負担は増えるのみ。岡山市では独自に、改善に対して成功報酬を検討中、との報告。

これらの予防・改善のため、統合心身活性化法を実践して行く。脳に効く運動療法が中心となる。フィンランドでは、運動が脳に好影響を与えるという考えが一般的。先進国で、運動がこれほど軽視されているのは日本ぐらいではないか。運動療法に加え、食事療法、睡眠・休養法、五感健康法・気力増強法などがプログラムに入る。これらを統合して、相乗効果を発揮。他の、がん、脳卒中、心不全等の生活習慣病の予防や改善を図る。

健康道場は、廃校等を利用した屋内（第 1）道場、自然の中で行う屋外（第 2）道場を設ける。屋内（第 1）では、統合心身活性化法を実践。レクリエーションの要素を加味したトレーニング「レクトレ」となる。屋外（第 2）では、作業療法が中心。ウォーキングや森林用、農作業、温泉浴などを考えている。

その他、都市農村交流フォーラム、事業モデル策定委員会の案などが紹介されました。最後に、この事業は、憲法第 25 条「生存権」に基づいていること。市民が、健康、医療に関して、知る権利、学ぶ権利、行う権利、伝える権利の行使であると確認がありました。

第 63 回（6 月）定例会報告（メモ）（続）

3) 講演「生活習慣病予防の指針と健康生活検定」(社)健康生活推進協会専務理事 江木佐織様

講演の前に、(社)健康生活推進協会の「健康生活検定公式テキスト」(初級編)を同協会から頂き、配付しました。江木様の自己紹介。広島の生まれで、被爆2世。いとこ3人のうち、20歳を迎えたのは自分一人。子供のころから自分の健康は自分で守る、は身につけている。中国新聞で記者とかキャスターを経験。岐阜県主催で、岐阜にゆかりの人たちが中心で集まって開いていた懇親会・三木会で、同じように健康に関して強い関心をもっておられたテレビ朝日の小松宣俊様(協会代表)と知り合い、2002年に一緒に立ち上げたのが(社)健康生活推進協会。ただの講演よりは、検定を入れるとただの講演より集中力が増す、ということで5年前に検定を導入。これまで、国立健康・栄養研究所での栄養指導者の試験の講座、携帯電話で若者が健康の検定を受けるフジテレビでの検定ジャポン、東京商工会議所の健康知識測定テスト(企業の社員向け)などのコンテンツを提供。



健康日本21の内容が今年の4月から変更。介護を必要とせず、自分で生活できる健康寿命が重視される。平均寿命と健康寿命は、男性で9.22歳、女性で12.77歳の違いがあり、その平均10歳前後の要介護期間が大きな問題。団塊世代が要介護期に入るとお金だけでなく、介護する側のマンパワーの問題も大きくなる。

成長期の若い女性のダイエット、痩せすぎは、胎児に大きな影響を与える・・・胎児時に飢餓状態にあり、生まれると大食い、大飲みして肥満になり易い・・・のでよくない。やせ過ぎの女性の比率を国際的に見ると、たとえば、BMI18.5以下の比率では、上位国は発展途上国ばかりなのに、

日本が10番目に入っている。

最近の3大死因が50年ぶりに変化。がん、心臓病について肺炎が、脳卒中に代わって入った。脳卒中は減り気味。肺炎が増えているのは高齢化の影響。

今、高齢者のやせ過ぎが問題になっている。たとえば、BMIが18以下の人。がんなどの病気との相関が言われている。

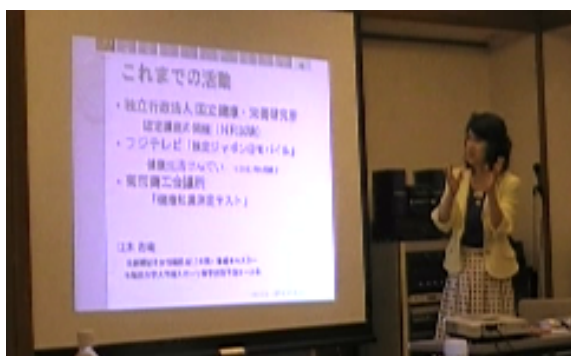
メタボ・内臓脂肪症候群の自己チェックとして20

歳の時と比べて10kg増えているとよくない。

厚生労働省の標語。1に運動、2に食事、しっかり禁煙、最後に薬。国立がんセンターのホームページの一般の方へ、という個所を見ると、データが一杯ある。がんに対する予防、治療に関する情報が一杯得られる。また、運動が実に大事か、運動不足がよくないことだと言うことがわかる。

病気の予防は1次～3次。1次は「発病を防ぐ」、2次は「早期発見・早期治療」、3次は「病後の機能回復・再発防止と社会復帰」。

食事の面で、昭和30年ごろに強調されていたのは、肉や魚の栄養でしたが、今は、ごはん、パンなどの主食、野菜、海藻などの副菜に次いで3番目になっている。



第 63 回（6 月）定例会報告（メモ）（続）

3）講演「生活習慣病予防の指針と健康生活検定」（続）

今、野菜は黄緑色、淡色合わせて 1 日 350 g 食べようという指針があるが、これが出来ている年齢層は全くない。ジュースにすると、必ずしもその重さの野菜を摂取したことにはならない。

運動は、目標 1 万歩で。閉じこもり、うつ病予防には 4,000 歩以上が必要。目安としては、10 分で 1000 歩。認知症予防には 5,000 歩以上。生活習慣病予防には 8,000 歩以上など。これらは根拠ある数字。健康維持・増進のための有酸素運動に効果的なものは、運動中は適性な脈拍数を保つことが大事。適正な脈拍数（1 分間）は、 $138 - (\text{年齢} / 2)$ で算出。75 歳前後なら適正な脈拍数は 100 前後となる。

昔は、運動中は水分を補給しないという教えがあったが今は逆。運動中でもどんどん水分を補給するのが常識。

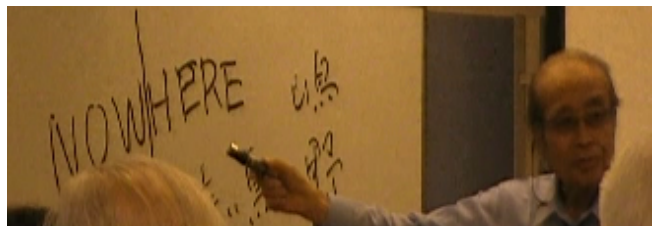
高齢者が身体を動かさないと骨の委縮や関節の機能低下を招く、廃用症候群を招く。データでは、6 週間寝ていると筋肉は健康な人の 4 分の 1 に。

歯について、8020（80 歳で 20 本が自分の歯）、6024（60 歳で 24 本）という指針がある。最近、歯周病と糖尿病との相関が言われている。歯は早目の治療が大切。

以上の内容について、数分の試験を実施。本来は 75%（12 問中 9 問）出来ていれば合格とのこと。聞いたばかりのことなので、多くの人が合格ラインに達していた模様。

最後に、日本人の幸福度が低いことなどへの疑問とか、年金をもらう前に亡くなったご両親のことを思い出されながら、感謝する心があれば長生き出来て、幸福なのではないか、ぜひ幸福度を上げて行きたいという気持ちを述べられて講演を締めくくられました。江木様、どうもありがとうございました。

幸福に関して、梶原から、青い鳥はどこにいるか、NOWHERE（どこにもいない）を NOW と HERE と分けて読む（ここにあり）・・・ものは考えようという例を提示。人づきあいから日頃の生活まで、心の持ち方は、体の健康にも大きな影響を与えるという話をしました。



会場から幸福度の話、特に男女差に関して、男性は仕事に生きがいを感じて幸福を感じるが、仕事を辞めると 180 度変わる。そこをどう埋めるかは幸福度に差が大きいのでは、という質問。江木様の答えとしては、そのとおりで、男女の寿命に差があるのはそこにあると言う説も。やはり、その生き方は大切。仕事を辞めて 30 年生きるということは、残りの人生と言うより、新たな人生として考える必要。団塊の世代がどんどん辞める前に、考えましょう。

心身の健康は確かに大切ですし、健康寿命も大きなことですが、一方、幸福度の問題も同じように大きな問題。市民会議としてもぜひ考えましょう。

三浦さん“80歳でエベレスト”の陰に

65歳でメタボの人にも「もう遅い」はない

三浦雄一郎さんが80歳でエベレスト登頂と言うニュースがありました。三浦さんが最初にエベレストに登頂されたのは2003年ですが、2007年、北海道心臓協会と言う団体に招かれた際の講演とか、他のいくつかの機会の言葉からその快挙の背景を探ってみました。

まず、びっくりしたのが、三浦さんは、生まれつきの心臓病持ちで小学校の時から不整脈があったとか。父敬三さんも、祖母も心臓病だったとのこと。したがって三浦さんは、登山する際も胸に心臓



の拍動を測る装置を着用。エベレスト登山は、登頂率30%、死亡率14%、登頂に成功した人の5人に1人が下山中に亡くなるという統計データのあるところ。そこに70歳でチャレンジしたと言うことで、実際、登山中に心房細動と言う、脈は200もあるのに血液が空回りして心臓に停留するような症状も起こしたと言うことです。

三浦さんは、1932年生まれですが、1966年には富士山を直滑降。1970年にはエベレスト8000mから直滑降と言う、若い時から冒険家、プロスキーヤーとしては素晴らしい経歴があるのですが、60歳代前半では、高脂血症、糖尿病、高血圧と3拍子揃った生活習慣病患者。特に腎臓は問題で、このままなら2~3年で人工透析だと医者に脅された、とか、実際、心臓も狭心症の前兆さえあったと話されています。三浦さんは学生時代、ヒラリー隊がエベレスト登頂に成功したことに感化され「自分もいつかはエベレストに登る」と言う夢を描いていたようですが、心臓病もあり、遠い、遠い夢。一旦エベレスト登頂を諦めたゆえに、飲み放題、食べ放題の生活をしてしまった結果、このような体になった。再度夢を思い出し、思い直して、5年かけてエベレスト登頂を目的に再度トレーニング、山登りを再開しようと思ったのが65歳の時だそうです。その結果が、70歳での初登頂。75歳でも登頂。さらに5年後の今回80歳での登頂となるわけですが、状況はもっとも厳しかったようで、大たい骨の骨折とか、心臓病の手術などを克服しての登頂だったとか。

とにかく、70歳で登頂とか80歳で登頂という年齢ばかりが強調されがちですが、生まれつき持病があり、ひどいメタボとかでも、夢を持てば、ハンデを克服し、もっと先に何かが出来ると言うことを示されているわけで、大変な精神力は大きな賞賛に値しますね。

三浦さんと言えば、もちろん、お父さんの敬三さんも登山家、スキーヤーで、101歳で亡くなられたようですが、その2年前の99歳の時にはアルプスのモンブランの氷河を滑走。その前には、エベレストやキリマンジャロの滑走経験があるとのことですが、敬三さんが本格的にスキーを始められたのは何と還暦の60歳とのこと。長生きしたいから健康法を実践するのではなく、スキーをするために健康法に常に創意工夫があったとのこと。何かを達成しようと思えば、強い意欲があれば何歳であっても遅すぎることはない、と言うことを、雄一郎さんは父親から学んだのか、遺伝で受け継いだのか、とにかく立派の一言です。

冒険は万人に真似のできるものではありませんが、敬三さんは、20年間、毎朝晩、黒ゴマ、きな粉、酢卵、ヨーグルト等を混ぜたドリンクを愛飲していたとか。1回ぐらい真似してみますか。

医師！近藤誠さんの著書を見て

患者・市民が自分で考えるきっかけに

最近ある本屋さんで見たのですが、近藤誠さんと言う慶応大学の医師の書いた本「医者に殺されないための 47 の心得」が平積みになっており、すでに 60 万部突破とか。先生は、1948 年生まれで、がんの放射線治療の専門医。乳房の温存療法のパイオニアとして知られ、慶応大学医学部を首席で卒業とか米留学など立派な経歴もある先生ですが、肩書は慶応大学の専任講師。治療法をめぐって他の多くの医師と対立して、途中で出世の道を閉ざされたのだとか。先生は前述の著書以外にも 20 以上あり、共著も含めると 30 位になります。それらの本のタイトルを見たら、さもありがた、と思う過激なものもずらり。例えば、「がん治療で殺されない七つの秘訣」、「がん放置治療のすすめ」、「放射線被ばく CT 検査でがんになる」、「抗がん剤は効かない」、「大病院『手術名医』

医者に殺されない……

の嘘」等々。現在のがん医療を正面から否定するような文言の連続。特に強く感じるのは、外科手術と抗がん剤に対する批判。他にも、先進医療とされる陽子線や重粒子線治療とか免疫療法など、さらにはがん検診も厳しく批判されているので、周りには圧倒的に敵が多いことは十分領けます。

放射線治療だけでなく他の治療法も相当研究されて、データもいろいろ示されているので、正しいことも多いでしょうが、それぞれには専門家もいるし、本を売るための誇張もあり得るので、賛否は難しいところ。ただ、医療の世界にある独特の論理や利害関係、診療科間の力関係などが治療法を決めていると言う先生の批判には耳を傾け、同じ医師でさえこれだけ意見が異なることに注目し、現状では、結局は、自分たちで勉強して自分で判断せよと言うことではないでしょうか。本がたくさん売れたこともあり、これまでの“啓蒙活動”に対して、昨年、菊池寛賞を受賞されたとか。

さて、医療も科学。あえて言えば、この極端な意見の違いは、どちらが正しくても、今時の現実としてはちょっと悲しくもなりますね。以下に、近藤先生の、今年になってからの著書『余命 3 カ月』のウソ」から、いくつかの記述をピックアップしてみました。あなたならどうする？

— 「日本では胃がん検診が社会的システムに組み入れられ、毎年何百万人も受けさせられています。それを支える根拠はないに等しい」「欧米では胃がん検診も肺がん検診も無効とされる」「(検診により) がんもどきも治療の対象になり、手術の後遺症や抗がん剤の副作用でがん死が増える」

— 「食道がん手術後の 5 年生存率は 1 期でも 50~60%。この生存率は手術をしてもしなくても同じなので手術は無意味。」「勘三郎さんも放射線治療をしたならまた元気に舞台に立てたはず」

— 「重粒子線治療は、今までの X 線治療と比べ、今までより重い後遺症を抱えるリスクが大」「理論は正当だが、現実には理論通りにいかない」

— 「免疫力さえ上げれば、がんを何とかできると錯覚させる『見てきたようなウソ』が広がっている」「欧米の医学界の常識は、がんに対して免疫力を強化しても無意味。効果なし。免疫と名のつく療法で患者を集める医者は詐欺師扱いされます」

— 「どんな抗がん剤にも、強い毒性による、拷問のような副作用、そして急死を含む『縮命』作用が伴います。」「日本で認可されている抗がん剤の半分以上が、欧米では認可されていない」

病気と遺伝子検査

個別化医療の先陣

女優のアンジェリーナ・ジョリーさんの乳がん予防のための手術はアメリカの国内だけでなく、多くの国でも話題になったようですが、遺伝子検査による罹患確率を考えて自分の健康を守るということをどこまでやるか、政府も個人も考える機会を提供したと言う意味でとてもいいことではないでしょうか。以前、KYG 医療会の宇住先生の講演「近未来の医療はどうあるべきか」をお聞きしましたが、まさに、「自らの遺伝子を知って適正な健康管理を」つまり、オーダーメイド医療、あるいは予防法の究極のものと言えるでしょう。ジョリーさんの場合、乳がん罹患確率が 87% と高率が予測されていたということや、比較的若い時に発症するリスクがある、ということで手術を選んだということですが、手術まで行かなくても、遺伝子検査によって特定の疾病の罹患確率が高い場合には、焦点を絞って生活習慣を改善することで健康を守ることが出来ればそれに越したことはありません。



人の遺伝子は、30 億個の A、T、G、C の 4 種類の核酸塩基の長い配列で、誰でも大部分は同じですが、1000~2000 に 1 つ程度の割合で変異があり、たとえば、殆どの人（野生型）が A であるところが G となったりして、体質の違いのもとになっています。このような変異を SNP（発音は Snip）と呼んでおり、各個人は計 100 万単位の SNP をもっていることになります。これらを両親から受け継ぐと、血液型と同じように、特定の部分で限られた種類の体質を受け継ぐということになります。国内ではすでに 19 万個の SNP が発見されているとのこと。高度な生物学あるいは遺伝医学の世界に深入りする気はありませんが、医療の世界では、日本でもすでに SNP と特定の病気の罹患確率とか、SNP と薬の有効性や副作用の関係なども 30 万人ものサンプルを集めてデータベース化するプロジェクトも始まっているようで、近未来医療もかなり進んでいると言えそうです。

現在、遺伝子検査でもっともポピュラーなものは、肥満遺伝子の検査で、家庭で口腔粘膜を綿棒でこすり取って専門機関に送れば、2~3 週間後には、検査結果と、予防のアドバイス等が送られてきます。他にも、生活習慣病、骨粗鬆症、アルコール感受性、しわ・しみのでき易さ、さらには、もちろん、がんの罹患確率など、バイオの企業や、それと提携した医療機関や、薬局、通信販売企業等、結構多くの企業が販売しています。例えば、聖路加国際病院には、遺伝診療部という診療科があり、カウンセリングも含めた検査をしています。価格は、通信では¥5000 位から、高額なものは 30 万円ぐらいまでいろいろあります。

さて、遺伝子検査は、医療上だけでも結構問題は多いのですが、生まれながらにしてもつ、自分ではどうしようもない本質的な不公平、能力やハンデを露呈することです。考えてみれば、ジョリーさんは、不幸な生い立ち。大女優でなく、一般の独身女性だったらどうしただろう。あるいは、一般の人は、どのくらいの人が遺伝子検査を受けるだろうか、よくない結果が出た場合の悩みや秘密の保持の問題とか、倫理的、社会的問題は非常に大きい。ジョリーさんの例を機に、行政や立法にも本腰を入れて臨んで欲しいと思います。

医療は公共財か、ビジネスか

④ スターバックスの医療保険制度

「コーヒー豆仕入れ代金と従業員の福利厚生のために支払う健康保険料どっちが多い？」という質問は、ご存じコーヒーショップのチェーンのスターバックスが、いかに従業員の健康保険に力を入れているかというお話。スターバックスはアメリカのシアトルに本社があり、世界 62 カ国に 2 万軒以上のコーヒーショップを抱え、売上 130 億ドル（1 兆 3000 億円）を誇る大企業ですが、アメリカ国内のおよそ 8 万人の従業員の健康保険に関しては、アメリカの企業の中では特別の存在となっているというお話です。



アメリカの公的医療保険は、65 歳以上の高齢者など限られた人だけの制度（メディケイド）があるだけで、通常は、各個人が、勤務先の加入している団体保険を利用するとか、直接、保険会社と契約するやり方が主流であることは周知のとおりですが、アメリカでは、スターバックスは、週 20 時間働くパート従業員に至るまで健康保険料の 75%を負担しており、現在では年 2 億ドル（200 億円）にも達しているとのこと。パートにまで広げたのは 1988 年からですが、当時、業績は芳しくなくて、役員会の承認を得るのは大変だったよう。同社の従業員の入退社の回転が激しかったようですが、入退社を減らし、会社への忠誠心を高める方法として、当時のマーケティング担当の役員で現在の会長兼 CEO であるハワード・シュルツさんが強く主張したということ。その背景には、彼の父親が、低賃金で、健康保険も提供しない会社に勤め、あげくにがんで亡くなったことがあったようですが、そこはビジネスマン、従業員の採用と初期教育に費やすコストは 1 人 3,000 ドルかかるが、健康保険料は 1 人年 1,500 ドル、と言うような計算を出して、説得したとありました。その後、同社の健康保険は、通常除外されることの多い、健診等予防のための費用、歯の治療、さらには、アルコールや薬物依存の治療にまで範囲を広げ、その戦略が奏功してここまでの大企業に。

シュルツさんは後年、当時のクリントン大統領に呼ばれて、1 対 1 で、スターバックスの健康保険制度について話をしたということですから、相当な例外で、目立つ会社であったことは間違いないでしょう。他にも、シュルツさんは、全社員を対象にしたストックオプション制度を導入するなど、従業員の福利厚生には、相当大胆な制度を導入するなど、アメリカでは極めて例外的ビジネスマンと言えますが、単に、昔からの日本的な企業理念や価値観を持っていると言うより、企業の重要な要素である人材の確保とか定着の面で、競合優位性を保つための重要な戦略と言った方がいいかも知れません。

しかしながら、近年は、保険料の増加が 2 ケタの伸び率で、売上の伸び率を上回る状況が続いているので、いかに競合優位性を保つためとは言え、この従業員に寛大な政策がどこまで維持できるか、従業員から見れば頑張っしてほしいが、必ずしも楽観的な見方だけではないようです。アメリカでは 2010 年にオバマ大統領のリーダーシップで医療保険改革法が成立したものの、実質的な改革は必ずしも順調ではない中、スターバックスの健康保険にも注目です。

FAX : 03 - 5403 - 7724 健康医療市民会議宛て

定例会参加申込書

送信日 2013年 月 日

ご氏名 :

7月定例会<7月23日(火) 両国・(株)玄米酵素東京支社>に

A. 参加します

B. 参加しません

同伴者、住所変更などご連絡事項がありましたらお知らせください。

先生を囲む会 : 定例会の後で、毎回、講師の先生を囲んで、軽食と飲み物の「先生を囲む会」を、開いています。会費は¥4000です。参加ご希望の方は参加に○ → 参加

前回の講演等についてコメント等あれば歓迎します。

健康医療市民会議(KISK) 代表 梶原 拓

〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-2 東武ハイライン大門203

TEL: 03(5403)7723 FAX: 03(5403)7724 E-Mail: Info@kisk.jp URL: http:// www.kisk.jp